

2015大分トリニータサポーターカンファレンス議事録2

【会場での質疑応答】

質問者 経営のことなんですけど、もちろん今年J3降格を回避するのが一番ベストなんだろうと思うんですけど、それがもしも叶わなかった場合、更にもっと最悪な場合にはJ3定着ってことも十分考えられますよね。その際、ファンドさんへの返済とか、また経営自体というのはやって行けるという想定はしてるんでしょうか。

青野 正直なところ、J3を見据えた具体的な作業は行っていません。ただし、これから申し上げる事はあくまでも私の頭の中にある、ざっくりしたものであるとご理解していただきたいと思います。それが前提です。ですから何も決まったことではありません。

2014年決算のJ3、11クラブの平均を見ますと、2億7,100万円でございます。盛岡さんの1億6,300万円から鳥取さんの4億6,000万円という規模でございます。

私どもの昨年の決算が約10億円です。これがJ3に降格した時にどうなるのかといった時に、具体的な内訳は申しませんが分配金が減るのは推測できますので、それが約8,000万円から9,000万円ぐらい減ると思っております。それと他にスポンサーさん等、いろんな事を想定すると最大約4億円強ぐらい減るのではないかと、仮定になりますがイメージをしております。そうしますと、5億円台の予算規模ということを私の頭の中でイメージしているところでございます。5億円台となりますと、J2の昨年決算ベースで見ると、水戸さん、愛媛さん、讃岐さんと同程度の規模になるのかなと思っています。とは言いつつも、協議はしたくありませんが前提としてもJ3になった時には、先ほど申し上げた通り我々は育成型クラブという事を十分踏まえまして、アカデミーの練習環境の維持、あるいは若手主力選手の残留というのを基本にしつつ、いかに売上の減少を最小限にするかということと、経費の更なる節減という事をやりながら、またファンドさんとも協議をして行く必要があると思っておりますのでございます。ですからJ3に降格すると即クラブの存続がどうのこうのとは無いと私は思っておりますので、ご理解していただきたいと思っております。

質問者 柳田監督と強化部長代理の西山さんのお話の中にもありましたが、放出選手は本人の意向が強かったという事ですけど、背番号を若くしてまで残留させ、昨年シーズン後に田坂前監督が「彼は成長した」と言われた選手が、今年になってほとんどピッチに姿を現すことはなかった。ピッチに出られないから移籍を希望したということですから、そう希望した選手についてはきちんと伝えてほしかったです。彼はいま岐阜県に行き、きちんと試合にも出ています。結果も出しているようにあります。チームにとっては非常に厳しい働きを今していると思えます。そういうことはしっかり意識していただきたいと思えます。

それから、荒田選手を8月に獲得し、それ以降数試合ありましたが何分出場したのでしょうか。お金を出しておそらく取ってこられたと思えます。フィットする、しない、があるんでしょうけども取った選手は使われていない。放出された岡本選手にしてもシーズン当初1・2試合出て、それからベンチを温める事さえなかったと記憶しております。取った選手を何で使わないのか。我々は素人ですから、皆さん方のように常日頃ずっと見ている方と違いますから全て分かりません。ただ、この選手とこの選手を比べた時に、どうしてこの選手なんだというのは、ネット上でいろいろ見ます。友達たちとも話をします。どうしてこの選手なんだという起用が、田坂前監督の頃から未だに続いております。この部分に社

長の言われた育成という部分があるのであれば、育成はもっと安定した状態の中でやっていただきたい。今はとにかく勝点3を挙げることに、全ての試合においてこれを求めてやっていただきたい。現監督が就任されて8月は確かに1勝3敗、それまではそこそこの成績を出して、結構持ち直すのかなという事もある。私も初めて福岡まで足を運んだりもしました。その中でも選手起用です。監督が決められることなんで分かりませんが、何を思われて（選手を）代えているのか、この選手をここで代えるかと思う様な所が、素人の私でもあります。ネットが全てでは無いとは思いますが、ネットでも同じようにあります。その辺の齟齬と言いますか、プロの方が考えることなんで素人が分かる必要ないと言われる様な所かもしれませんが、結果が伴えばプロの方の判断で間違っていないと思います。ただ結果が伴っていない以上、少しは考えて、違う事をトライするというような事をする、とそういう風に思います。残り12試合ですね。熊本はかなり持ち直してきています。決して甘くないと思います。あまり根を詰めて行くとひどい目に会うと思いますのでリラックスした中で、何とかいい結果を私共も求めています。残留に向けて、来年J3を見る事がないように、何とか頑張ってください。よろしくお願いします。

柳田　　まず獲得した選手がなかなか使われないという事については、先程もお話した通りかつて私が強化部長であった頃に選手を獲得していた訳ですが、本当に現場と様々な事を検証した中で獲得してきているのは事実です。そんな中で、思う様な出場機会を得られずに出て行ってしまっている選手がいるのも事実です。ここに関しては、実際に私達も目で見て、その上でチームがやっていきたいスタイルに合うのかどうかということと、サッカーは個人のスポーツではありませんので他の周りの選手やチームの雰囲気など、そういったところに融合する選手かどうかなど、様々な検証をした中で獲得はしてきております。ただ残念ながら期待を裏切るような選手の移籍や獲得が重なっている中で、そこに関しては、より慎重に行うことや、もう一つ言える事は例えば私も含めたスタッフが、新しく入ってきた選手が力を発揮するためのサポート、個人の力を引き出す取り組みというの、より検証していかないといけないのかなと。何故かという（クラブがオファーして）移籍してくる力を持っている選手には光るものが必ず何かある筈だと、そういう選手の良さを生かすために（スタッフが）何を出来るのかということも、もう一度検証して、また努力もしていきたいと思っております。

またゲームの中で様々な（状況があり）、何で（交代させるのか）と思われる方がいるのは事実かと思えます。特に夏場に関しては分かりづらいかと思うんですが、痙攣をする選手が非常に多く、そこに関しては選手が弱いと言われてしまえばそこまでですが、そういう事もしっかりトレーニングで補っていきたくとも思っていますし、やはり選手の交代に関しては私が努力していくしかないと思っていますので真摯に受け止めたいと思っています。

質問者　　2014年から今年にかけて、前半はとても試合内容がいいイメージがありますが、後半10分を過ぎると完全に相手に流れが行ってしまうようなイメージがあります。前半の戦いはいいとして、特に後半はどのような考え方をするのか、今後12試合、または来シーズン以降どのような戦いをするのか、お話をいただけたらと思います。

柳田　　そこについては、特に夏場8月の戦いはそういった状況が非常に見受けられたのかなと思っています。前から行きすぎて結果的にそこで前半に（体力を）消耗してしまって、後半に足が止まってしまうのではないかと、様々な意見をいただきました。その中で、少し細かいことを話しますと今取り組んでいる「（プレスに）行くべきなのか、行かないべきなのか」という判断をしていくところについては、

だいぶ出来るようになってきています。その中で、相手にボールを回される時間が長くなると当然（体力を）消耗するため、ボールを奪った後に繋ぐ時間、縦にボールを運ぶべきなのか幅を使って攻撃する、もしくはしっかりボールを保持する。そういった判断が出来るようになれば後半の戦い方というのも改善はされてくると思っています。

質問者 先ほどの質問された方と少し重複するかもしれませんが、今シーズンがスタートして、ホーム開幕の岡山戦では序盤はボールキープできてシュートに持っていき形はできていましたが、シュートが枠に飛ばない、もしくはキーパーに止められて得点につながらないことが多々ありました。そして試合終盤、相手に押し込まれてそのまま失点をする形が多く見られたと思います。得点が決まらない部分は、強化部で話し合い等をされて永井選手を獲得されたと予想していますが、DFラインについて、後半終盤になって押しこまれ失点をしてしまうという部分の改善はどのようにされていたのでしょうか。8月も似たような形で、セレッソ大阪戦では先制の形は取れましたがその後DFラインの連携が取れていないのか、マークが合っていなかったのか、セットプレーでの失点が多く見受けられました。DFラインの先ほど西山さんも柳田さんもお話しされていましたが、山口がセンターバックからサイドバックに行ってしまう形を取ると、やはり明確にもう少し変えないと失点というのが、ここ最近8月に入って夏という影響もあると思いますが、スタミナが切れて失点という形が多く見受けられるのでその改善点をお話できる範囲で伺いたいです。

あともう一点、言いづらい部分もあると思うんですけども練習をたまに見に行きますが、いま元ガンバ大阪のパウリーニョ選手が練習に参加されているそうですが、今の時点で結構ですので、獲得に向けてお話を進んでいるのか、もしくはどのくらい進んでいるのかお話しただけの範囲でお聞きしたいです。

柳田 守備に関しては、次の試合に行くかどうかは別の話ですが、昨日の長崎戦でダニエルをセンターバックに入れて新しい組み合わせを試しましたし、選手の部分で修正していくところもあります。この2週間、天皇杯はありましたけども熊本戦に向けて守備のクロス対応や、ゴール前の強さだったりとか、誰が出てもある程度できるようなトレーニングを積んでいます。ゴール前でとにかく粘った守備が出来るように、簡単に相手にシュートを打たせない守備が出来るような修正をしていっている状況です。

西山 パウリーニョに関しては、8月16日から約3週間、テスト参加中です。もともと実戦の場からしばらく遠ざかっていることを認識した上で練習に呼んでいます。そういう事ですのでコンディショ的にはかなり不安があります。ただ今年度の追加登録期限というのが9月18日になっていますので、なるべく早めのジャッジをしないとイケないと考えています。このジャッジに関しましては、現時点で100%の選手を良いか悪いかで判断するのではなくて、数週間後にどのレベルになっているか、というイメージを持てるかどうかという判断なので非常に難しい判断になります。そのためそこは慎重にしたいと考えているのと、また仮に獲得した場合でも、コンディションを上げるのにかなり時間を要すると思いますので、もしかしたらラスト5試合とか短い試合に関われるかどうか、という位になってくるかもしれないある意味“賭け”のようになってくるかもしれません。ただ、彼の持っている技術だったり経験値、メンタリティ、そして彼が途中から投入された時に左足の一発だったり、日本での経験もありますのでそういったところは期待できるのかなという思いもありますので、しっかり見て判断していきたいです。現時点では獲得する、しない、は決まっていない状況です。

質問者 大分トリニータ、大分FCに関してチームのマーケティング力が少し弱いんじゃないかと思っています。

例えば、チラシ配りなんですけども、社員の皆さんがいつも着てらっしゃる黒のポロシャツを着て行っていますが、「いつも何をやっているか遠目では分からない」という風に声を聞いたこともあります。

その配られているチラシに関して、クーポンが毎回ついているんですけども、クーポンの使い方というのがどこにも書いていない、記載していない中で、どのようにしてこのクーポンを使うべきか、正直もらった方も「行きたいな」という風に思わないんじゃないかなと感じました。例を挙げますと、他チームはチラシが両面プリントになっていて、表に何月何日、対戦相手がどこで試合があります、裏面にチケットの購入方法、それから入口の案内など書いてあります。大分FCに関してその記載がないという状況です。ポスターの方も、今いろんなお店などに貼ってもらっていると思いますが、そのポスターも前期と後期日程のポスター2種類と、奮起させるためのポスターが1枚、見る限り3枚ですね。こちらもちょうとどうかかなという風に思います。お金が関わるところなのでちょっと変えてというのは難しいかもしれませんが、1つ工夫を加えることで、表現の仕方などが変わってくるので、そういったところを少し改善してほしいなと今季思っています。

青野 チラシの作り方、ポスターの作り方、そして今配っているチラシに付いているクーポンの使い方が分からないというご指摘がありましたので、そこは私もチケット担当ともう一度、そういう観点から検討していきたいと思います。もしアイデアがあれば、また後日でも結構ですから、教えていただき、それを来季に活かしていきたいと思っております。

そして耳が一番痛いお話でしたのが、チラシ配りをやっている私どもの社員のいわゆる本気度が見つからない、ひどく言えばチラシを配って「次のホームゲームに来てください」という思いがないというような、ただやってる感だけだろうという、極端に言えばそういうご指摘だと思っています。そのところは真摯に受け止めて、社員にもそういう意見があったことは伝えて、これから改善していきたいと思えます。というのも、チーム云々じゃなくて、やっぱりまずは我々フロントがチームと一体感を示さないとサポーターの皆さんに言葉だけ言ってもダメだろうと。まずはチームを信じ、チームを支え、これからやっていくんだということをもう一度社員と共有をして、今ご指摘があった特にチラシ配りの態度・気合、そういうところを改善していきたいと思っております。またこれからも、いろんなところで気が付いたことや思ったことがあれば、即改善していきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

質問者 15年間ユースの応援をしています。過去に大学に行った選手が誰一人戻ってきていませんが、ユースから大学に行った後を見ているんですか、というのが1点。あと、昨日対戦した長崎には(井上)裕大、岸田、刀根などユース出身者がいますが、誰一人戻ってきていません。しっかりユースを育てるのはいいですが、誰も戻ってこない状況はユースを応援している者としては寂しいかなと。

西山 ユースから大学に進んだ選手たちに関してですけども、可能な限り見えています。進学先の大学でレギュラーになっている選手、そこで活躍している選手であれば練習参加をさせています。例えば今年の夏であれば、立命館に進んだ茂平を呼んでいます。そういった活動はやっていますので、そこに関してはご安心いただきたいと思います。

また、他クラブに移籍した後に獲得するかという事は、大学経由でうちに戻す事とは、また別の話になってくるかと思えます。僕らも可愛いユースの選手たちという思いがありますから、極力戻していきたいと思えますけども、(他チーム、プロとしての)契約事になってきますので、大学に進んだ子たちとはまた話が違ってきますので。ただ、例えば同じようなレベルの選手であれば(ユース出身の)その選手を優先するという思いがありますので、そこはご安心していただければと思います。

質問者 スタジアムで初めてサッカーを見る人は「面白くない」とか言います。今年から試合中にオーロラビジョンでイエローカードが誰という表示があって非常に分かりやすいです。テレビで見るときは全部解説がありますが、サッカーの会場では何がどうなったのかよく分かりません。理想としてはそのイエローカードは異議であるとか、ラフプレーだとかいうことも表示されればいいなど。あと負けている時はハーフタイムが面白くありません。勝っている時はリプレイを流すので盛り上がるのでしょけれど、負けているときもぜひ流してもらいたいです。例えば過去の良い映像を編集して流すとか、ハーフタイムで過去の栄光でもいいです。何か楽しめるような事をやっていただければいいと思います。

青野 ありがとうございます。なかなかスタジアムの上の方から見ていると（警告等が）分からないというところがありましたので、Jリーグ全体で统一的にやっています。ただし、（警告の内容について）異議はわかるでしょうけれど、ラフプレーなのか繰り返しなのかは、最終的には試合終了後に審判とマッチコミッショナー等で協議をして最終確定しますので、（試合の）途中段階では誰が（警告を）受けたかは確定しますから表示できますけども、（警告の）内容については最終確定しないとダメなので、そのところは難しいと思います。

あとハーフタイムについては、前節のゴールシーンなど少し工夫を運営サイドと協議していきたいと思っていますので、貴重なご意見ありがとうございます。

質問者 クラブの収入源に関する質問ですけども、クラブの収入源で主にチケット収入やスポンサー収入が非常に大きい割合を占めてると思いますが、その中でグッズ収入がどのくらいチームに入っているのかなということを気にしています。というのも、あくまで噂でしか聞いていませんが、前社長の時にグッズの販売権を他社に売ってしまいクラブにあまりグッズ収入が入らなくなってしまったんじゃないか、といったような話を耳にしたことがあります。実際それが真実かどうか分かりませんが、現在のグッズ収入というのがクラブにどの程度入っているのか、もし分かるようでしたら教えていただきたいという風に思っております。

青野 まず前社長の時に販売権について売ったと。（販売権を）持っている他クラブもありますが、うちが当時その（販売権を売るという）判断をしたんだと思います。（グッズ販売は）やはりロットがかなりあります。（Jリーグ全般のグッズ製作を担う）Jリーグエンター等に発注する場合に最低 200 など、ある程度のロットを申し込みしなければいけないといった時に、在庫を抱え込んでしまうというリスクが出てきます。リスクが容易に想定できるという中で、クラトリ（オフィシャルグッズショップ クラブトリニータ）さんとの関係の中で、クラブのリスクを回避するという意味から今はクラトリさんの方にグッズの販売権を委託をお願いしていると。私が責任者になって（経営危機）以降というのは、そういうリスクを負わないということは正直言って楽になっています。逆に言えばクラトリさんの方がリスクを負って、特に私どもの成績が良ければいいんでしょうけども、悪い時はなかなか売れませんが、ご迷惑を掛けているという状態でございます。

クラブとしてのグッズ収入がどれくらいかについて、2014年のJリーグの決算の中で詳しくは出てないと思いますが、他のクラブでは売り上げで8千万とか7千万というクラブもあります。ただし、その中でどのくらい経費が掛かって、実際のグッズの利益がどのくらいかというのは、それぞれのクラブに問い合わせないと分かりません。クラブがクラトリさんから（グッズを）買ったりしますが、結果的に相殺をします。クラブがお金を払わなくていいという、いわゆるマージンの中でやっていますが、

クラトリからグッズを買うという以上に、マージンとして芽生えるものが約5百万円程ございます。ですから経費は一切掛からずに皆さんがクラトリさんで買ってもらうというところで、(クラブへの)純利益が数百万あるという風に理解してもらえたらなと思っております。

質問者 質問がたくさんの方から出て時間も押していますので、質問というか1個お願いがあります。実際に(クラブを)心配しているし期待している、だから日曜日の夕方の忙しい時でしたが、明日から仕事や学校があっても(皆さん)集まってきている。日曜日の試合でも試合に駆けつける、アウェイに駆けつける、そうやってみんな勝利のためにやっています。それは選手、チーム、フロントの方々も勝利を狙っていると思います。今年こういう結果になるまで、何度も何度も、同じサポーターメンバーも、何度も僕たちは訴えかけました。10節や愛媛戦、監督が交代するタイミング、何度も何度も訴えてきました。その時(クラブから)何も返ってこなかったんですけども、田坂さんは返ってきました。そういう風に僕らが訴えかけていることに対して、もうちょっと耳を傾けていただいて意見を聞いてもらいたいですね。僕らは一生懸命応援しますから、それを本気でフロントもチームも向かってきてほしいんですよ。残り12試合です。本当にラストスパートです。他チームも昇格争い・残留争いをしてくるんで、もっともっとギアを上げていきます。本当に負けないように、もっとフロント、チーム、サポーター一緒になって戦いたいと思います。もっと他のチームやってきますよ。そこをさらに上げる、僕らを見返すような感じで来てください。よろしくお願いします。

司会 ありがとうございます。それでは最後に青野よりご挨拶をさせていただきます。

青野 先ほどの方のご意見というかご要望といいますか、サポーターの皆さんが一生懸命アウェイもホームも戦ってくれている、それに対していろんな思いがある中で、我々もそういう思いなんだというところを、これからぶつけてほしいという事ですので、真摯に受け止め、いい形でも意見交換をできるだけやっていきたいと思っております。

最後になりますけども、日曜日の夕方という中で長時間に渡り、ありがとうございます。一言で言えるのは、やはり残り12試合を皆さん、チーム、我々フロントが一致団結して戦うことが1番だと思います。セレッソ大阪戦の後、最初のチームの立ち上げのミーティングで私は選手に言いました。「残り12試合、残留のために死に物狂いで戦ってほしい」と。実は選手には、「残留」という言葉は責任者として、その時初めて言いました。それまでは降格圏を脱出して1つでも上の順位を、ということで何回か選手には檄を飛ばしましたが、でももう残り12試合しかないということは当然わかっています。だから私はもう残留なんだと、死に物狂いで残留するんだと。そのために監督、スタッフ、選手、そして我々フロント、サポーターと一緒に戦っていき、ということを行いました。それともう1点、私も県庁時代を含めて1サポーターでした。それが今、責任者になっておりますけども、選手に私は皆さまの代表として、大分県庁時代の1サポーターの一員として、頭を下げました。「大分トリニータをJ2に降格させないでほしい」と、これはサポーターの気持ちだと。選手は分かっているだろうけども、いま頭を下げるのは社長じゃない、1サポーターが頭を下げに行きました。これから残り12試合といえども、最初の6試合が重要だと思っています。そこで結果が出ないと(選手も)人間です。(残り試合の)カウントダウンの数字になった時に、やっぱりぎこちない動き、実力を発揮できないかもしれないと思っています。ですから今後の最初の6試合、中でもやはり最初の熊本それから岐阜、北九州の3試合をうまく滑り出さないといけないだろうと思っています。そのためには、やはり皆さま方の力強い声援が選手の力になって参ります。9月13日ホームです。しっかり戦って参りたいと思いますので、

今日のこのサポカンでの意見交換（を踏まえ）、これから12試合、我々も選手もみんなで頑張っていきたいと思っています。本来の（今季）目標とは違うので喜んでいいかどうか分かりませんが、11月23日の最終戦の後には、残留することで喜びを分かちあいたいと思います。そういう危機感をもって12試合を戦っていきたいと思いますので、皆さん引き続きのご支援、ご声援をよろしくお願ひしたいと思っております。今日は本当に長時間に渡りましてありがとうございました。

以上